



50—安藤緑山《柿置物》  
大正9年(1920) 牙彫色染

西欧においても、日本においても、植物の姿をかたどった写実的な彫刻作品というものは、生みだされることがなかった。写実性のある濃い彫刻とは、まずは人間を、ついで動物や鳥といった、動く生きもののかたちを造型化し、その姿を長く残すことを第一の制作動機としているからである。

しかし、この彫刻の歴史の欠落を補うかのように、20世紀に入ると、国内外のさまざまな工芸家たちが、植物をモチーフとする写実味のまさった作品を制作するようになりはじめた。それは、これまでにはない、新たな主題の可能性を求めようとする工芸家たちの挑戦の足跡であったといえよう。ここで紹介する5点は、そうした植物の立体像のうち、日本で制作された優品の数々なのである。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代日本の置物と彫刻と人形と  
— 豊饒なる立体像の世界  
三の丸尚蔵館展覧会図録No.34

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 横溝廣子  
発行 宮内庁  
平成16年3月27日

Modern Japanese Ornamental Artifacts, Sculpture, and Dolls  
— the fruitful world of three dimensional figures  
Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.34

Edited by the Museum of the Imperial Collections, Tokyo  
(Sannomaru Shōzōkan)

Printed by Tokyo Bijutsu Co., Ltd.  
Translated by Hiroko Yokomizo  
Published by Imperial Household Agency, Japan  
Issued on March 27, 2004

Copyright ©2004, The Museum of the Imperial Collections, Tokyo